

令和2年7月豪雨 ～災害の記録～



河北町

本災害記録誌における表記等について

本災害記録誌の本文及び図表中における表記等は次のとおりである。

- 1 特段の記述がない限り、年表記のない年月日は「令和2年」を示している。
- 2 特段の記述がない限り、掲載している数値等は、令和3年6月末時点の数値である。
- 3 **避難情報の発令については、令和3年5月20日施行の災害対策基本法改正前の基準によるものである。**
- 4 河北町の表記については、「町」あるいは「本町」と表記している。
- 5 部局名（〇〇課〇〇係）に特段の自治体名の記載がない組織名称は、本町の組織であり、その名称がその後の組織改正等で変更している場合であっても、当時の名称で表記している。
- 6 施設名称についても同様に、当時の名称で表記している。
- 7 本文及び図表中における氏名は敬称を省略している。また、役職等についても当時の役職名で表記している。
- 8 時間の表示は、24時間表示（0時から24時）で表記している。
- 9 本文中及び図表中において、一部の正式名称を略称で表記している。 令和:R、ホームページ:HP

発刊にあたり

昨年7月28日(火)22時に最上川下野観測所の水位が17.55mを記録し、誰もが経験したことのない豪雨災害から1年が経過しました。被害を受けられた皆様に改めてお見舞いを申し上げますとともに、復旧・復興にご支援・ご尽力を賜りました全ての皆様に心から感謝を申し上げます。

町では、豪雨災害復旧・復興推進本部を立ち上げ、国・県の関係機関、関係団体と連携しながら、一日も早い復旧と最上川の無堤区間の解消をはじめとする流域治水対策、復興対策に取り組み、今年3月には最上川流域治水プロジェクトに、押切地区堤防整備、溝延地区堤防整備、大久保第二遊水地改良、河道掘削などの治水対策が盛り込まれ、今後のハード・ソフトの流域治水対策の推進に道筋が示されました。

河北町は、母なる最上川を東に湛え、南には清流寒河江川、そして北西に緑豊かな山々を臨み、その恵みを享受しながら、豊かな経済・多彩な文化を形成・継承してきました。一方で、幾多の水害にも悩まされてきました。近年、頻発している地震に加え、大型台風や局地化、集中化、激甚化する豪雨が全国で頻発しており、災害から生命、暮らし、財産を守るための備え、行動なくして次世代に繋ぐまちづくりは実現できません。

昨年12月、第8次河北町総合計画を策定しました。人口減少の加速や大規模災害の発生など目まぐるしく変化する時代に対応し、町民一人一人が希望をもって安全安心に暮らすことができるまちを目指し、かほくの未来を切り拓き、次世代につないでいくこととしました。この記録誌が、昨年7月の豪雨災害を忘れることなく、これからの災害対策、まちづくりに活用されることを念願するとともに、この記録誌の発刊にあたり、ご寄稿、ご協力くださった多くの皆様に感謝申し上げます。



令和3年8月

河北町長 森谷俊雄



過去に類を見ない記録的な豪雨に見舞われ、最上川の水位が上昇し、町内各地に甚大な被害をもたらした令和2年7月豪雨災害。

議会は、町豪雨災害対策本部と情報を共有し、被災箇所の復旧、支援対策を進めるために、「豪雨災害対策支援本部」を設置し、執行機関と協力して課題解決に向けて取り組んでまいりました。

私たちは豪雨災害の経験を教訓として、今後の災害対応の強化につなげるためには、町民の命と暮らしを守る一段加速した防災・減災対策を推進することが大切です。

そのためにも、効果が着実に発現されるハード対策については「最上川水系流域治水プロジェクト」に位置付けられた国・県管理の河川整備事業の早期着手を切望するものです。

また、ソフト対策については、新たな防災体制の構築と自助・共助・公助を中心とした町民各位の防災意識の高揚、自主防災組織活動の充実を図っていくことが重要です。

少子高齢化が進む本町で、災害に伴うリスクと不安が軽減されなければ、今後の人口減少の加速へつながる恐れがあります。したがって、これからも行政・議会・地域住民の皆様が一体となって、「災害に強い町づくり」を進めていく必要があります。

令和3年8月

河北町議会議長 漆山光春



(7/29) 最上川と寒河江川合流拠点付近